



現代社会の基礎サバイバル知識

vol.9

今回のテーマ



言葉遣い

将来就職した際はもちろんアルバイトなどでも求められる正しい言葉遣い。今から身につけておかないと…。

親や先生以外の大人と接する機会が減った平成生まれ世代は、正しい言葉遣いが身につけていない…とはよく言われるところ。今はまだ気にしていない高校生も多いかもしれないが、高校生を対象としたマナー講座などの講師を務める麻生専門学校グループの徳久晶子先生は、「そのままにしておく」と将来自分が損をすることになる」と指摘する。

「いずれ社会に出て仕事をするとき大切なのは伝える力。そのために必要なのが正しい言葉遣いです。つまり、正しい言葉遣いができなければ、能力があってもそれを十分に発揮することができないのです」

そして、急に直そうとしても簡単にはいかないのが、言葉遣いの難しいところだ。「自分ではきちんと話しているつもりでも、

「くじやないですか」「くかも」など、上の世代には違和感のある言い回しが無意識に出てしまう若者は多いですね(徳久先生)

そうならないためにも、今のうちから敬語や正しい言葉遣いのトレーニングをしておきたい。徳久先生は「NHKなどのニュース番組を見る習慣をつけることをおすすめします。大人の正しい話し方に、耳で慣れる。ことがポイントです」とアドバイスする。

ただし、小手先のテクニックだけでは通用しない。大切なのはやっぱり、気持ちだ。

「敬語や言葉遣いをはじめとするマナーは、自分のためではなく相手のために必要なもの。そもそもコミュニケーションの基本は相手の立場に立つて考えることです。まずはそれを心がけてください」(徳久先生)

きちんと話しているつもりでも
つい出てしまいがちな若者言葉例

→ 「～じやないですかあ」

「私って引っ込み思案じゃないですか」のように自分のことに関して使うと特に違和感がある。相手は心の中で「知らないよ」とつぶやいている可能性が…。

→ 「～かも」

「それ、好きかもしれないです」など、自分の気持ちや判断なのに断定を避けるような使い方はNG。相手に「はっきりしない子だな」という印象を与える。

→ 「普通に」

例えば「普通にいいですね」。褒めているつもりでも、上の世代にはそのニュアンスが伝わらない場合がある。「普通で悪かったね」と思われかねない。